

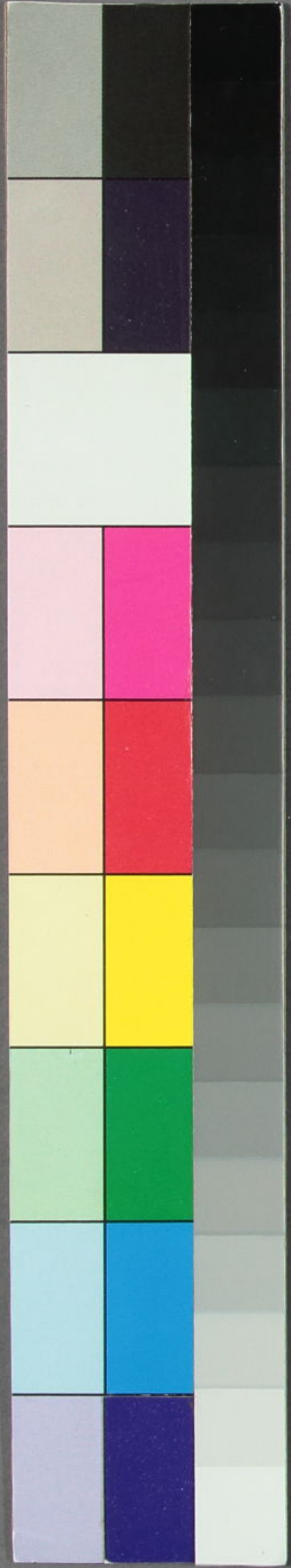
新編

古談正

風林風

龍家大系圖
下

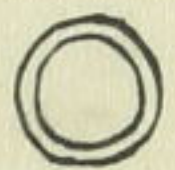
911
56



誹家大系圖下之卷

伊勢津

生川春明著



山本西武

光方

佳種

瑞信

田中氏通称詳ナラス名ハ信光銀竹軒ト号ス京師久西武叟
 高弟ニシテ後一家ヲナス朝江種寛ト友トシ善シ 家書
 雀子集 常磐草 々々々々 等アリ
 星野氏通称六左衛門家名ヲ山田屋ト号ス京師久後剃
 髮ニテ宗以下改ム西武叟老弟ナリ
 北岩倉桑門南菴ト号ス 家書 連俳合掌 一卷
 アリ没年詳ナラス

誹家大系圖下卷

〇一

正在

小原氏名隆光京師ノ人没年詳ナラス **家譜**ニ直弟トアリ案ニ **崑山集**ニ谷野正在ト云入アリ此人ヲ謬歟中島氏通称源左衛門名勝直松月菴ト号ス薙髮シテ隨流ト改ム 隨流ノ二字ハ公書シテノ經文ニヨルトモ又ハ水車ナリヨリ起ルトモ云 三條川原町上町ニ住ス即吟ニ達シ回文ヲ善ス **家書** 紙屋川水車 寛文元年独吟ナリ全篇回文ナリ **破邪顯正** 菅野谷高政ノ中庸發批言 **鷲ふえ** 百千鳥 **貞徳永代記** 二ツ 孟 或書ニ曰ニツ孟ハ金勝慶菴任伯ト云入ノ作トアリ隨流下葉ノ人歟考ヘシ 等アリ 宝永五年戊子二月土日没行年八十

崎人傳ニ金勝慶安トアリ歌入トミニタリ

隨有

瀧川氏昌樂ト号ス復怒水子ト称ス儒學ヲ松永昌三隨ヒ俳事ハ梅盛ヲ師トシ後隨流ニ属ス宗因風横行スルヲ憎シテ批言ノ書ヲフル号シテ猿ヤリウチト云 洛東鷲峯ノ桑門法名詳ナラス **家書** 夢物語アリ **隨風** 姓氏詳ナラス書風隨流ト伯仲ス 京師法然寺ノ住職法名詳ナラス一號滿郭ト云元禄五年印本ノ書目録ニ源氏鬢鏡一卷著スアリ謬タリ上卷ニイヘリ

素文 伯瓜

正長

貞木

島本氏通称七左衛門正伯ト号ス京師ノ人 **崑山集**ニ田中正伯ト云入リ貞翁真門人歟又廣澤長好ヲ**家集**ニ同名ノ人モミエタリ 出口氏花香堂ト号ス **家書** 手松明 一卷アリ 元禄九年丙子十月二日没行年七十一

柳水

中路氏神輿岡ニ住ス **家書** 大元式アリ

紹節

藪内氏紹春カ男忠岳ト号ス京師ノ人茶事ヲ以テ業トス没年詳ナラス **茶人大系圖**ニ忠岳ノ二字ヲモラセリ

定之

神戸氏東林軒ト号ス **家書** 一挺フド凡 一卷アリ 西武晩年門人ト云元禄十三年庚辰九月六日没

辞世 朝うらハ久しきものよ五十年

乘秀

足田氏通称十一屋市兵衛始名養壽ト云 京師ノ人

道可

山本氏名字詳ナラス京師六條ノ人ナリ 或云東本願寺ノ家司トモ 扱或説ニ曰西武叟撰スル砂金傳後集四卷師ノ名ヲシルストイヘトモ

松春

松泉

未達

竹翁

元怨

可全

立卜

児玉氏好春息池流亭ト号ス 家書 祇園拾遺物語

耐健謙諧小傘 同等アリ没年不詳案ニ宝永正徳ノ頃歿

児玉氏松春カ従弟初松洗ト号ス後泉ノ字ニ改ム松春没メ後

池流亭ト号ス又自小僧ト称ス 元文元年丙辰九月三日没ス

行年五十三〇松春ハ元禄五年印本 四十三番時代不同發合ニ令

西村氏通称 名久重京師堀川 久ナリ書

物齋ヲ業トス 家書 関相撰 三卷アリ

橋部氏耕齋ト号ス 宝永五年戊子三月五没行年

六十二京師人 當百人一ノ一人ナリ

山岡氏元磷従弟名字詳ナラス京師ノ住 家書

續俳諧仕様アリ寛文延宝中ノ人

大村氏通称彦太郎家名ヲ白木屋ト云京師室町ニ住ス和

歌連歌ニ達ス元磷可全吟叟羽翼ノ門人多ク

半井氏通名詳ナラス一六ト号ス始名ハ文郁京師ノ人後浪

卷ニ移リ医術ヲ以テ業トス浪卷三十六人一人ナリ

正風祖 桃青

松尾氏俗称甚七或忠左衛門名宗房伊賀国上野ノ人始京師ニ出

テ吟叟ニ隨ヒ師木嶋筑波道ヲキ公後東府ニ下テ談林輩ニ交リ勸破

ニ正風ノ道ヲ開ク其風日々盛ニ其従弟月々加凡三千有余人薙髮シテ

風蘿房ト号シ芭蕉翁ト称ス 深川ノ菴室ニ芭蕉一株ヲ植テ雨中ノ吟ハ芭蕉野分テ益々雨と知る者多ク芭蕉名ニ起ル

家書 二十歌仙 延宝八年次庚申初夏博狂町本屋

貝おぢひ びさし千句 三百韻 奥の細道

以下集門弟ノ条ニ抄出 元禄七甲戌十月十日没ス行年五十有三

栗津義仲寺ニ葬ル 終焉記ハ晋子其角ノ枯尾花ノ巻首ニ載

開キミルニ尚翁ノ傳ハ路通ノ行状記許六滑稽傳及ヒ一代記其

外諸書ニ委シケレハコニ不贅 尚門人等 中編 下巻ヲ 下編ニ云ベシ

山口氏名信章字子達来雪ト号ス復自蓮池翁ト称ス 庭前蓮池ヲ作リ朝暮愛シ

故此名アリ天和三年其角カ撰メルニ素堂カ荷與十唱アリ其一章ニ云きまきまはくはくノ風晴をきかへん又同集其角蓮池ヲ臨ムノ句

家書 絵ヲ善シ松尾桃青翁ト友トシ善シ

行年七十五谷中感應寺中瑞音院ニ葬ル

黒露

山口氏素堂甥宗齋ト号ス稻中菴ト称ス家書硯 澤
老山集駿河百韻等アリ宝曆年間八十有余ニテ没ス
小西氏通称詳ナラス大坂ノ人ナリ江戸本町ニ寓シ後総州行
徳ノ社職トナル家書芝ささり山ノ端千句等アリ叔或
書ニ曰似春ハモト里村家ノ門人ニテ連歌師ナリ通称加右衛門ト
号シ家名ヲ奈良屋ト云又一説ニ奈良屋加右衛門ハ導ノ信名ニ
テ似春ニアラス似春ハ加賀屋三郎右衛門ト云イワレカ是ナルヲ知ラス

似春

秀和

大野氏通名詳ナラス炭瓢齋ト号ス又自相水翁ト称ス始集和
ト号ス後今ノ字ニ改ム江戸ノ人也弱冠ノ頃某侯ニ仕テ後隱主ト成
正徳四年甲午八月卒ス六十有余 元禄九年 ひとつ鳥ニ肖
像ヲ載タリ○男ヲ秀堂ト号ス父ノ後ヲ續テ家声ヲ墮サス
志村氏拾葉軒雪堂翁ト号ス江戸大鋸町ニ住ス本去越後久也
家書紙文夾 二卷アリ享保八年癸卯二月廿九日没ス行
年六十三合海山青松寺ニ葬ル法名天質硯壽居士
辞世 涙ハさ〜ハ水ヨリ水(水)ノ道

無倫

倫里

足立氏穂葉軒ト号ス
畷住ス享保中ノ点著
村松氏孤松軒ト号ス
紀州若山ノ人
東武大徳院弟子安住院住職法名尊海和尚後本土江州
銀塘ニ居ス天和壬戌年卒ス 或書始高野山蓮花寺住職トアリ
或隨心院トアリ
来川 足立氏倫里息始古鈴又水軒
ト号ス家書金臺録
夢物語等アリ元文元
年丙辰十月没

讀糟

吟市

久津見氏初名詳ナラス江戸ノ人
二世吟市ノ後ヲ續テ吟市ト云

浮生

北藤氏銀塘居或ハ迦樓羅園ト号ス江戸銀町ニ住ス家書
原誹論 水秤集 鳥跡話 等アリ享保
二年丁酉正月廿三日没行年四十八日向金剛寺ニ葬ル
姓氏詳ナラス名ハ安朝丹州久或阿州徳島ノ人トモ晩年ニ
及テ京師ニ寓居ス 家書 誹諧鳥合 大長刀
等アリ 當百人一旬追加ニ出タリ

水雲

可常 如春 友吉 素雲 康吉 道伯 自悅 久武

丹波國氷上郡神池寺中中姓院住職法名不詳家書法のこま
二卷アリ○又以隱入玄。倫和。意友。四僧神池寺ノ住
可常門人致

伊藤氏名字詳ナラス京師人 延宝三年乙卯夏没ス
新百人二句ノ一人ナリ 津田如春トハ別人ナリ

櫻井氏通称甚右衛門京師人 或人云友吉山岡元隣門人
ニテ吟叟ノ直弟ナラストモイヘリイニ夕是非ヲ知ラス

佐治氏通称詳ナラス晩年吟鳥ト改ム
京師人茶ヲヒサギテ業トス

下村氏通称利兵衛京師人
新百人二句ノ一人ナリ

青木氏名字詳ナラス浪卷ノ人医ヲ以テ業トス延宝三年乙
卯年没ス辞世 けいものやなくて浄土へ月の舟

濱川氏名ハ行中後師風ヲ変シテ一風流ヲウクル家書
空林風葉集 二日三百韻 花洛六百韻 等アリ

大鹿氏名字詳ナラス京師人
家書 弘誓舟アリ

伊豆氏通称亦兵衛
京師人

中村氏俗称詳ナラス浄貞ト号ス又一安子ト称ス浪卷ノ人
家書 浪 花草 四卷アリ息子ヲ宣居ト云

柴垣氏一下ト号シ松風軒ト称ス城南山崎卷ノ人繪ヲ善ス梵
益ト友タリ 家書 越路草 四卷アリ

小澤氏踞齋ト号ス始名孤吟ト云後蕉翁ノ門人トナリ今名
ニ改ム 蕉翁東都ニ下リ始テ履ヲトキニ六ト尺ノ家戸ナリト

綾錦ニアリ 寛延四年辛未九月卅日没行年詳ナラス
浅草誓願寺ニ葬ル○父ヲ得入ト号ス 称太郎兵衛本舟町坊正
宝永六年十二月廿四日没

誓願寺ニ葬ル連排ヲ善クス
行年詳ナラス

上林氏通称竹菴浄雪ト号ス城南宇治ノ人茶ヲ製スルヲ
以テ産トス晩年白川ニ閑居シテ俳諧ヲ專トス寛文始ツ

頃没ス行年詳ナラス
川並氏通称不詳

江州ノ人 宣為 安親男吟叟 孝女 宣為 妹

静山 橘泉 貞度 木因 胡兮 良典 古益 本水

浪老大文寺ノ住職法名詳ナラス○同名ノ俳僧アリ比叡山無
量院ニ住ス書ヲ善ス筆法定家様ニ似タリ
姓氏詳ナラス■松軒ト号ス京師ノ人医ヲ以テ業トス
十會集ノ一人ナリ

高木氏通名詳ナラス皆醉子ト号ス
尾州疾ノ臣 寛文中ノ人

谷氏白櫻下ト号ス又自ラ杭■川翁ト称ス後蕉公羽ノ門弟
トナル美濃大垣ノ人弱年トキハ木端ト云家書俳諧秘密

坂部氏弥堅ト号ス豊前中津ノ人
家書到來集アリ

館氏意行子ト号ス江戸ノ人
家書むさしの集アリ

桑折氏通称左衛門名八宗臣青松軒本水居士ト号ス伊豫
宇和嶋疾 家書大海集七卷アリ

桑折氏宗臣君息隣松軒
椽三居士ト号ス

水野氏通名半内名勝種備後福山疾或云梅盛門トモ
家書むらぬき千句アリ

名高通

曾テ連俳ヲ好ミ其頃

延室中洛ヨリ季吟父子ヲ招キ專行ハセラル續連珠七之卷冬ノ部「季吟」ニ始
テあり「津」ニ「ま」ニ「村」ニ「雨」ニ

久居ハ百五十韻アリ御秀詠ハ續連珠集ニ數多載タリ開キ見ルヘシ

○氏続出井集ヲ覽ニ江戸ノ住或ハ伊勢津ノ住トアリ苗氏ニ○ヲ
解ニ故アルヘシ新続独吟集 季吟判ノ詞ヲ按ハ江戸ノ久トミエタリ

二條 攝政康道公後淨明珠院ト号ス後中院昭實公男實
忠榮公ノ八男 寛文六年丙午七月廿八日薨六十

東本願寺御門跡 大僧正琢如上人淳寧院ト号ス寛文
十二年辛亥四月十四日寂四十二歳

東本願寺御門跡 大僧正常如上人靈瑞院ト号ス元禄
七年甲戌五月廿二日寂五十四歳

頼邑 福富 任口 無端 千丸 白話 暫醉

旧旅

東本願寺御門跡 大僧正一如上人忍見院ト号ス元禄十三年
庚辰四月十二日寂五十二歳

○右之御方々吟叟ノ門人ナラス十會集ニ出ニヨリテ爰ニ録ス

高瀬梅盛

元晴 高瀬氏称 高瀬氏称
太右衛門 元親 高瀬氏称 仁右衛門

信德

伊藤氏通称助左衛門梨杵園ト号ス又自竹犬子或ハ
ト称ス新町夷川ニ住ス幼時鼻祖ニ見ユ祖翁許スニ徳ノ字ヲ以
テス翁没メ後西武梅盛ニ從テ道ヲ學フ武没メ後一向梅盛ヲ
師トス毎家事務有テ東府ニ往及シ數檀林ノ徒ニ會メ師風ヲ
変ス故ニ句異躰多シ又蕉翁ニ親ク深シ公羽東府ヨリ書ヲ浴ニヨ
セテ曰近上都ノ風體何如下信徳和及我黒ノ数人ト日々相會メ
討論ス不覺至飲酒数斗終ニ雨の日や門提テ以カキツク此
句ヲ作テ以テ贈ル宜ナルカナ其音節ノ佳ナルヲ其角雜談集及
俳諧古選ニ記セリ 家書 江戸三吟 延宝六年信徳東府ニテ梅青素
堂ト三吟ノ三百 韻ナリ 十百韻 五戲言 白重

浮世姿 七百韻 胡蝶判官 桂まが

等アリ元禄十一年丙寅十月十三日没行年六十六

信昌

伊藤氏信徳男通名没年詳ナラス按スニ元禄四年印本吾子たど
ニ信徳孫の身ゆりけ樹ト「淨身分の故と追をれ」はしむ
ト昨非ノ吟アレハ弱年ニアラサレニ尚信申云次男モアリ後世通セス
津田氏通名詳ナラス若州小濱ノ人

家書 青葉山アリ

重徳

寺田氏通称詳ナラス寛山集ニ寺田次郎左門正安寺田清兵衛休也ニ人
印本三之卷ニ老衰驚初秋ト前書シテ 家書 独吟集
續独吟集 ちまづり 新独吟集 花見兵慶
等アリ

琢石

管原氏京師ノ人 百人一句ノ一人

可心 三宅氏若州小濱ノ人

江水

姓氏詳ナラス流木堂ト号ス江加柏原ノ人 家書
柏原集 當世百人一句 等アリ

信安

植村氏棹歌齋ト号ス始名芥舟ト云江加水口人後京師住
狂歌ヲ善シ茶香ヲ嗜ム家書あらくし花拾遺
等アリ元文二年丁巳八月十七日没行年六十八
姓氏詳ナラス老山子ト号ス
越後新瀉ノ人
姓氏詳ナラス
京師ノ人

一醉

海

楊々子 丹後宮津沙門法名不詳
家書 浦嶋集アリ

隆志

北村氏錦花堂ト号ス又自信安齋ト称ス家書合 鏡
笹 本 百杜 鶴 草むすび 等アリ明和
元年甲申歳九月六日没齡七十辞世詞書云鳥將死鳴声悲人
將死言善ヲ誦證雜一体有常不用之生篋云殘誰命期月
日忘哉 乃ちちとけつれとりの日ハこれなり

隆雅

北村氏隆志息子初錦志ト云醒井通松原上ル町ニ住ス父没メ
点者トナル 家書 宵月夜 云父追善集也 天明二年壬寅四

豊秋

月北四日没行年詳ナラス
長村氏阜鶴齋ト号ス宝暦六年丙子十月廿九日没
行年五十七京師ノ人
杉本氏青々館ト号ス綾小路通烏丸東ニ入町ニ住ス
即吟ノ達人善ク數句ヲ吐ク没年詳ナラス
山本氏梅園ト号ス醒井通高辻下ル町ニ住ス
安永八年己亥七月廿八日没行年八十五

文也

鼠公

順也

本春

倫員

辻氏大黒菴ト号ス明和七年庚寅八月二十五日没享年四
十四辞世 梨の乃乃丸くく果より
内田氏幼名平吉 或云俗称トモ 京師室町ノ人
家書 五節句アリ
野田氏通称 重春舎弟ト云
家書 三十六俳仙集アリ
藤村氏名ハ忠久茂舟菴ト号ス薙髮シテ如堅ト改ム京師ノ
人ナリ家書 木玉集アリ 藤村庸軒男

秋風

三井氏名六時次京師ノ人家書狂遊集ニ卷アリ
没年詳ナラス古選ニ鳴龍住トアルハ別人歟

宣安

筒井氏通名平三郎名良以ト云後百之ト改ム東府ノ人始良
徳ニ隨ヒ後梅盛ニ属スト

一

内山氏通名正菴播磨姫路ノ人始貞翁ニ從ヒ後梅盛ニ属ス
家書早梅集六卷アリ

離雲

隱僧姓氏詳ナラス洛陽東山清水寺ノ麓ニ草菴ヲ結
懷慧菴ト号ス和歌連歌及狂歌ヲ善ス

行貞

内海氏通称治兵衛名光重不求子ト号ス内海宗惠カ從弟
ナリ没年詳ナラス案スルニ寛文中頃欽山下水春之部下ニ

安重

安重「世とくどし浄土の春よ入日か」ト梅盛ノ吟アリ
近善齋藤氏始名朝三ト云後今ノ名ニ改ム菴ヲ四條道場中ニ結テ

如泉

真珠菴ト号ス善ク漢和ニ達ス家書重宝記
狂歌句式漢和十句松をやし池心亭

番匠童

其角カエラミハツト世
ノ番匠童トハ別本ナリ

等アリ正徳五年己未八月

十七日没行年七十有余○始ハ香山氏ト云

如雲

姓氏詳ナラス京師ノ人
家書五百三歌仙

如風

姓氏詳ナラス
京師ノ人

秀朝

藤井氏通称吉左衛門梅遊子ト号ス三條油小路ノ人梅盛及
貞室ニ隨フ明暦年間没行年詳ナラス鸚鵡集ニ見エタリ

竹翁

西村氏通名良菴瑞竹軒ト号ス肥後國熊本ノ人始貞翁ニ從
翁寂ニテ後梅盛ニ属ス家書松花集肥後名所

永力

等アリ没年詳ナラス案ニ延宝天和ノ頃欽
齋藤氏通称玄真浪老内本町ニ下目ニ住シ
医術ヲ以テ業トス没年不詳

一步

千村氏通名詳ナラス濃州ノ人ナリ父ヲ重樹称喜右衛門貞徳翁ノ
直弟ニシテ秀吟寛永ノ鷹筑波集ニ多ク出タリ

一笑

小指氏名ハ味頼加刃金澤ノ人梅盛及秀吟ニ隨フ後蕉翁ノ
門弟トナリ翁ノ風ヲ吟ス元禄元年没行年詳ナラス室晋齋其

野也
重道

角ノ雜談集ニ曰加嘉金沢の一笑ハあつた他諸小あつた者
あり翁の脚の程ハ高申さんとして遠く心きくをそのひけは
年より重芳の存よりちかひらき合はきつちあひりり
よ父十三回よりして奇仙の流儀と十三巻孝忠とよし思ひ
けりもくもく息もきく痛みの顔のちかぬるを福みき
いりりんがくきげんひちる小死いも悔たうあつて
羽仙出来ぬまは子帯と合ふうをいぬるを呼みあつても
初やまび八巻とぬくぬきこれハ我服よけてこそあつて
あつひ珍せとくちとほひの眉重くふきうりて「ふり雪う
く」や西のくも臨終正念とすくり云「トミチリ尚同名ノ
俳士數人アリ委ク俳家人名類聚ニ云ヘシ
高梨氏通称丈菴京師ノ住医術ヲ以テ業トス和歌連歌ニ達ス
又書ヲヨクス明暦万治年間ノ人新百人一句ノ内
木村氏通称詳ナラス飯笹子ト号ス江東草津ノ人書画便覽
三十六人ノ内ヲモラシテ此士ヲ載タルハ穿鑿オロカナリト云ベシ

政時
吉頼
重尚
良三

原田氏ト有子ト号ス
京師久後命政ト改ム
坂倉氏不驕軒ト号ス
濃州竹ヶ鼻ノ人ナリ
小山氏拙心子ト号ス
京師ノ人
一村氏藪竹子ト号ス
京師ノ人

樂圓
可政
道繁
以專

京師觀音寺住僧法名
詳ナラス一号知泉ト云
大田氏通名勘十郎貞松子
ト号ス濃州竹ヶ鼻ノ人ナリ
佐々木氏
京師ノ人
泉州坂真光寺ノ住職
法名詳ナラス

石田未得

可曉 宇田川氏
歌道

可信 同苗

未石 同苗邑里
堂俳家

未琢

石田氏未得男良堂ト号ス居所父ト同シ 家書
一本草 和句 解 或云未得 著トモ 等アリ天和二年壬戌三
月廿日没行年七十有余浅草誓願寺ニ葬ル 法名
隆芳院未琢居士 新百人一句ノ一人ナリ

意深

不卜

石田氏未琢男菊川ト号ス
 吉田意安醫道ヲ学フ
 岡村氏通称市郎右衛門一柳軒ト号ス東府人 家書
 江戸廣小路 向のとろ
 四年庚未四月九日没
 平阿山法恩寺ニ墓アリ

未陌

櫻井氏未琢ノ門人トリ
 中橋通ニ住ス

不角

あやみき
 著述七十五版
 焼失トアリテ
 百八句マテ
 載タリ

立羽氏虚雲齋ト号ス或ハ南々舎松月堂ノ數号アリ。薙髮
 シテ法橋法眼ニ任ス。後自千翁ト称。書画ヲ善ス。江戸ハ丁堀
 ニ住ス。此士才学スコフル高シ故ニ師風變シテ一家ノコトヲ成ス。化鳥
 風ト云家書 笠乃 蠅 鐘倉紀行 全部三卷 かくがせ輪 九卷
 同 十卷 同 十一卷 木曾の麻衣 清らむる
 母恩集 二葉松 信順行 百人一句三
 一騎 步 等アリ宝曆三年癸酉七月廿二日没行年九十二
 本願寺中淨勝寺ニ葬ル 墓所一覽ニ宝永トアルハ筆ヲ誤リ也
 辞世 空惚ハととの裸ヲ返リケリ

不高

山夕

再曰綾錦後集 鳥山彦 享保廿一年 印本上卷 詠風變化ノ辨ト云条ニ
 「元祿のまゝ晋子其角洒落詠諧と云付合の一体を起ハ
 岸本調和。阿曲一峰。大野秀和。岩本子英。等の宗
 匠合体して當時の洒落と云詠諧ハ謎字乃体子似て云
 かも一句ハ訣別る。當流正風体と云ハ是ふまゝなぐらふと
 黄楊枕と云書と編ま北藤浮生。原詠論といふ書を以て
 其返答を以て正風と化鳥といふと詠諧ハけより華江の
 詠諧ニ流小と云れぬ 立羽不角 今千翁 その頃より今以流儀
 かきく息不高 壽角の三十八益々一流と立て他の詠風
 小かきく息不高トアリハ不角ノ流義ヲ化鳥ト云誤歟

立羽氏安月堂ト号ス不角ノ長子ナリ
 家書 ねのうらひ 風姿 集 壽角 二男松千堂
 ○不角門士魏々ト云群ヲ成ス雖然後世聞ハる人ナシヨリテ畧ス
 樋口氏 二世 山夕 始仙水ト云久保町ニ住
 江戸人 始仙水ト云久保町ニ住

荻野安靜

或書安靜初名ヲ荻田九郎兵衛重和トアリ此説ウタカシクテ直弟系ニ洩セシ三卷刻ナリテ後道遊集頁往翁家集也ヲミルニ荻田安靜トアリ是ニヨリテ同人ナルヲ知レリ

似船

富尾氏通称弥二郎名重隆芦月菴ト号ス後薙髪メ似空軒ニ世統テ似船ト改公五條堀久家書隱グさ 芦花集

堀川水

苗代水

勢田長橋

大上戸

安樂音

火吹どけ

此一書室永おけ詣ノ吟ナルヘシ當時火吹竹ノ唱哥流行セリ

入相鐘

等アリ室永二年七月十六日没行年七十七

姓氏詳ナラス京師久家書

口説草 四卷アリ同

名俳士勢陽松坂ニアリ別人ナリ

加計

林鴻

堀江氏通称 名六重則烟月堂雲風子ト号ス江州大津久後京師ニ寓ス戯文ニ達シ画ヲ善ス うぶ毛 ナトヨク知ル所ナリ家書 ゆらむつし 京羽二重 等アリ

鞭石

福田氏井龜軒ト号ス後而笑堂ト改公晚年自法見ト称ス京師久家書 磯多色松 一卷アリ享保十三年戊申

二月十五日没行年八十歳

辞世 終よみく岸の柳也法の児

佐藤氏桂花菴ト号ス

享保十五年庚戌土月三日没

行年七十京師久家書 當世百人一句ノ一人ナリ

佐藤氏有扇力徒弟名字詳ナラス元禄年間ノ点者

先兄没ス 當世百人一句ノ一人

村山氏風流子ト号ス京師久家書元禄室永中ノ点者

没年詳ナラス

若江氏通称詳ナラス名令之京師久家書

若江氏通称詳ナラス名令之京師久家書

攀高

山縣氏杏花亭ト号ス 享保十五年庚戌十二月廿七日没行年六十四 京師久家書

梅應

山中氏西翁堂ト号ス宝曆二年壬申二月没行年不詳 梅應 山中梅應息天明七年丁未正月四日没五十一

練石

福田氏ニテ鞭石ノ孫ナリ鞭石没後門人等師家ノ系緒断絶セ
シテ憂於是芦花翁其嫡孫練石ヲ輔テ二世点格ヲ立テ舊号
ヲ續テ即子而笑亭ト号ス晩年石々翁ト改メ玄兒ト称ス松原室
町西入町住ス家書岸柳法兄連喜系ヤルキ高低窟
等アリ寛政元年己酉七月六日没行年八十八
辞世 〴〵ハ洗ハル乃月の鏡ノ形

一四

西川氏明月菴ト号ス又自改齋ト称ス京師人 延享
三年丙寅九月十四日没行年三十八

辞世 何悟ノ喝ノ一声ノ秋乃蟬

羽紅

竹田氏玄々堂ト号ス 寛保三年癸亥閏四月三日没行年
五十七歳 辞世 ゆく雲よみて連ぞん時鳥

知石

鈴鹿氏寸松堂ト号ス自昔花翁ト称ス弱齡テ而咲堂門人尤
翁己ラメ執筆ヲ役セシム故ニ翁ノ顔愛ヲ得テ家秘口決傳之無遺
家書 野馬臺集 三卷アリ 元文五年庚申

十二月十三日没 行年六十歳

荃石

知石カ息初名ハ知九寸松堂ト号ス生質穎敏ニテ且篤實寔
風雅ノ器ナリ家書 千里 雪云父没後幾少歳アラ
スノ寛保二年壬戌六月廿七日没行年三十人甚惜之

辞世 終りハ水無月涼一宵清し

知木

鈴江氏寄松堂ト号ス家書橋立松 元文五年庚申五月
廿八日没年四十四 辞世 ゆく水ととも小涼し石川也

翠柳

山中氏花木亭ト号ス 明和元年丁酉十月十二日没行年
七十二 京師人ナリ

蘭石

中村氏雪竹齋ト号ス 元文三年戊午七月二日没行年
五十五 辞世 萩のよみ孫陀ときく夜と期哉

蘭石

中村氏蘭石ノ息ナリ初如蘭ト云後父カ名ニ改メ元三代点格
益佳シ京師白山通松原上町住ス天明二年壬寅正月十二日没

行年六十九辞世 無ハ数ク一日ク多クテ枝ク

佳山 丈石

中村氏央更舎ト号シニ蘭石齋ト号ス而咲翁ニ從テ道ヲ
學フ尤点業ヲ續ク天明八年戊申九月廿日没行年詳ナラス
早川氏千載堂ト号ス初名和雄ト云師家ノ執筆多ク曾テ四
時堂ヲ至ニ因テ漢和ヲ善ス師没シ剃髮シ宗順ト号ス家書

筆舞莖 長樂寺千句 菅菘日記 西吟百歌仙
緒手卷拾遺 橋立紀行 南紀紀行 狂歌百首
俳諧家譜 等アリ安永八年己亥七月廿日没八十五歳

辞世 極樂ヲ誕生日ハクヤカレヤ

蘆中

古澤氏芸暉堂ト号ス初名牛磨ト云 家書狂連千句大石西吟
袖 鉈 園 莖 立 等アリ寛保四年甲子十月六日没
四四歳辞世 我のこりかゝるハ霜の柱立

梨風

奥村氏芸暉堂ト号ス宝曆十三年癸未十月六日没行年五十
有余 辞世 一ミコトキ霜の莖ク

林石

甲良氏伏龜堂ト号ス初名ハ愚候ト云又自都齋ト称ス後莖
石ヲ後ヲ續テ寸松堂ト云家書松乃林 梅乃林
等アリ宝曆二年壬申四月廿六日没行年六十三

因石

三谷氏松養軒ト号ス初名君李後今ノ名ニ改公明和二年乙酉
三月廿八日没行年六十七辞世 名もかゝる花の浄土(宿むひり

都牛

高橋氏轟々齋ト号ス又千蝶子ト云寛延三年己巳八月十五日没行年
四四 辞世 何のまゝ沙々多々カ 秋乃風

五株

八木氏化龍館ト号ス洛東新道柳町住ス天明八年戊申六月廿八日没
卒六 辞世 いとまとのりこぞ蚊帳の中

其梅

野村氏伴松堂ト号ス天明八年戊申二月十五日没行年七十歳京師
久 辞世 ねもくハ無為の都と住所

調和

岸本氏通名猪右衛門名ハ友正薙髪メート号ス又主齋ト称ス
江戸兵服町住ス江戸鹿子及圖鑑細目 本主ハ奥州久也始京師ニ出
テ安靜ノ門人トナル側ニ梅盛ヲ教テ受ケルト家書 是まど草

富士石 題林一句 等アリ正徳五年乙未十月十七日
没行年八十有余 築地門跡中ニ葬ル法名調和院道鑑居士
号ス 肖像ハ太白堂枕隣ノ陸奥千鳥ニ載タリ

調^{二世}

和

堀尾氏敲柳堂ト号ス初名ハ和推ト云調和二世ヲ續テ師ノ

名ニ改ム木芝ニ住ス 寛保三年没行年詳ナラス

横田氏壺谷軒ト号ス東府ノ人医ヲ業トス

家書 分 外 集 アリ

艶

士

風

和

江原氏正六位佐渡守ニ任ス出羽國社司梅樹軒ト号ス家書

梅乃露 把 菅 等アリ正徳二年壬辰二月十

八日於京師卒ス行年六十一歳

辞世 梅乃露 白の土と故郷と

心

友

中田氏通称詳ナラス鶉巴軒ト号ス始東府ニ住シ後伊勢國山

田乘ル神風館足代弘氏神風館ノ祖傳 系中編ニ委シト親ミ檀林風ヲ吟ス秀

吟杉の群立ニ出タリ又自ラ撰六御田扇四巻アリ没年不詳

立羽一角撰
百人句三最上郡
大谷ノトアリ

和

椎

堀尾氏始名ハ和專録ト号ス敬而菴ト号ス二世調和ノ息子

芝濱松町三町目ニ住ス 没年詳ナラス

藤田氏名字詳ナラス麻布土屋君ノ侍医元祖点印二世調和

ヨリ附属ス 宝曆六年丙子秋没ス

木戸氏通称詳ナラス医術ヲ以テ業トス後根津権現ノ社

職トナル享保年間ニ没 **むつ千鳥**ニ肖像ヲ載タリ

三輪氏名字詳ナラス宗因ノ門人ニテ調和ニ属ス或云山池西

言水ノ句集 **毛登柏**ニ江戶八百韻春明云吉印本 奥延室ニ集ト云集撰

一 仍リク時素堂ト云つとゆきまの夜い〜更ぬ所ハ本

庄一鉄ヲ許家ま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜トアレハ

本庄ニヤ住ケン此文往時ノオモキ眼前ニミルコトナス

石橋氏名字詳ナラス伊豆ノ國人

家書 青柳千句アリ

内本氏

京師久

俊秀

村瀬氏 京師久

定利

徳永氏 京師久

宗

英

喜

得

一

鉄

常

陽

和

三

高嶋玄札

及加

高嶋氏通称善大夫勢陽山田師職玄札ノ
從弟ナリト云家書 嘲哂集 アリ

或不在菴加友法師ノ門人トモ云是非ヲ不知

一 蜂

河曲氏俗称詳ナラス田泉舎ト号ス又自葛仙翁ト称ス江戸
神田ニ住ス晩年本土勢陽山田ニ皈ル享保十年己巳九月十日
没行年八十有余 陸奥千鳥ニ肖像ヲ載タリ

正法寺成安

成政 池嶋氏

宗 吟

池島氏通称左右衛門名成之泉州堺ノ人成政從弟也○
古短冊裏書ニ池田重永力伯今宗吟ト号大和郡少人アリ同名別
多木氏俗称京屋清兵衛

正 重

泉州堺ノ人

柳 夏

細谷氏通称詳ナラス名成元
泉州堺ノ人

池田正式

正 親

池田氏正式男玉海集及源氏鬢鏡
五十四人ノ一スニ撰ミイレル郡山侯臣ナリ

正 辰

岡村氏通称詳ナラス大和國郡山ノ住家書大和順礼集三卷
續大和順礼集 五卷アリ寛文年間ノ人

法樹院加友

加 連

伊勢松坂久姓氏詳ナラス樹教寺中
僧欣毛吹草 山井集ニ秀吟多

クイリ 山の井ハ正保四年印本大本ナリ
慶安板ハ横本ニテ再刻

氏 守

荒木田氏

子 英

岩本氏通称忠兵衛伊勢松坂久後江戸ニ下リ淺草ニ居住ス
後又本所ニ移ル家書 黄楊枕 花時鳥 等アリ
貞享元禄年間ノ点者 白魚ノ句ノ美談アリ爰ニ各ス

乾什

岩本氏子英 千歳児ト号ス満足菴ト称ス初名ハ吳文
ト云浅草竹門ニ住シテ一号ヲ竹婦人ト称ス戯文ニ達シ
水調子ト云院奔世ニキニタリ宝曆九年己卯二月十七日
没浅草寺境内人丸社前墓碑アリ

辞世 さいとけや八十年のゆりもの

再曰加友撰集 伊勢とよりイマダ閱セス此外門弟多カレシ

棕梨一雪

文西

或書ニ延宝四年ノ言羽織ヲ引用シテ
此名ヲ出セリ棕梨一雪カ一号欵又親族欵
予未タ此書ヲミス

一貞

高田氏通称傳兵衛京師ノ人後東武ニ移ル

家書 貞徳誹諧記アリ寛文中点者

友意

渡邊氏通称八弥尾刃名古屋ノ人ナリ 或云友次門弟ナリト

家書 旅衣 四巻アリ 万治寛文中

春昔

姓氏詳ナラス独弁軒ト号ス
京師ノ人

藤谷貞兼

貞頼 藤谷氏通称三右衛門 貞兼父歿

貞則 藤谷氏通称弥右衛門

貞勝 藤谷氏通称弥七郎

西角

寺井氏輪花堂ト号ス自村雲翁ト称ス又要心居士ト号ス

京師ノ人ナリ 享保十五年庚戌八月八日没行年七十歳

辞世 月影をうらみく今も万里

一方

北川氏西角菴ト号ス湖塵窟ト云自鶴翁ト称ス後薙髮メ
行雲ト改メ西堀川通元誓願寺ト住ス家書 鳥宿アリ

宮川松堅

長之 宮川氏通称三郎右衛門 松堅兄歿

晚山

爪木氏唵花堂ト号ス又二童齋ト称ス初名ハ永可ト云富小
路加藤盤齋カ舊宅ヲ購ヒモトメテ居所ス家書千代古道
橋立案内 等アリ享保十五年庚戌八月十昔没行年六十

九歳門人等遺言依テ雙岡長泉寺中兼好法師墓ノ傍ニ立

辞世 油巻くゝるよ身ハあゝのまの落

再曰元禄五年 書目録ニ山太郎返答摸物語ヲ著タル

門人石柱ト云人アリ是レ晚山カ秘号歟

晃山

道山

白鵠

爪木氏晚山ノ息男ナリ後京師ヲ去テ津國長柄村ニ住シ
雅業ヲ廢メ医トナル 没年詳ナラス

井上氏櫻戸ト号ス 享保五年庚子八月十五日没行年
六十四歳京師久

大矢氏初名虎竹我黒ノ門人ナリ黒没メ後晚山ノ弟子トシ
蘆隱軒ト号ス老後薙髮メ高辻烏丸東清香菴ニ住ス自第

齋ト稱ス 家書 四季大全 俗根源 等アリ
延享三年丙寅九月廿七日寂 行年七十九歳

梧山

重田氏寄石店ト号ス初淡々門人後白鵠ニ属ス回文ヲ善クメ
即座數句ヲ吐ク家書 青海波全編アリ 享保十八年

晚年

貞為

癸丑三月二日没行年三十八 曾テ聞ク臨期夜窓前ノ梅
樹花終ニ殘ル偶鵬ノ来啼アリ山カ曰吾將終即取筆辞
世ノ句ヲ書ス 香やひき法々々名なきびや 書シ
己テ眼ヲ閉ツ可憐年来ノ習情末期ニ及テ猶作回文句
野々山氏初名施隱招花堂ト号ス 享保十八年癸丑八
月八日没 行年五十八歳京師久
梅原氏和海軒ト号ス 享保十三年戊戌七月十四日没
行年六十歳 京師久 枿園ノ三世トス

松貞

加藤氏通称詳ナラス枿園ノ四世トス 享保十五年庚戌
四月七日没行年詳ナラス

清佐

北田氏通名詳ナラス享保七年壬子九月十八日没行年四十七
辞世 木まりのやちりて益ちきいふが

周為

大塚氏雲石翁ト号ス松貞
没後枿園五世ヲ續グ 鳥道 徳田氏伊高齋
ト号ス京師久

捨女

丹波國氷上郡栢原田氏ノ女ナリ弱年ヨリ和歌誦誦ヲ好
吟叟ノ門弟多ク寛文觀山の并 秀吟多クイリ後松堅ニ属シ專和歌ヲ学フ女
六俳仙ノ一人ナリ曾テ宗族田義園田野克玄一カニ嫁シ杜歳ニ
佛誦ヲ善ス
ニテ寡トナリ剃髮シテ妙融ト号シ淨土律ヲ学後禅法ニ皈シ
大法正眼國師江ノ本在天禪寺開山
盤珪禪師ノ謚リ名ニ參メ開悟ス一草廬ヲ播州
細干邑ニ創メ不徹菴ト号ス 元禄十一年戊寅八月十日於彼
菴寂ス壽六十五歳 嶺雲貞閑尼首座ト諡ス

正宣

香田氏初名ハ明水ト号ス後人子ト改ム居ラ堪忍軒ト号ス又
松戸ト云自衰弱ト称ス家書 松戸集 麻木合
かりをし 等アリ享保三年五月十二日没行年五十八歳

其諺

圓山正阿弥住職五條橋東ニ隱棲メ四時堂ト号ス又自肖菊翁ト
称ス曾テ真珠菴如泉ニ隨ヒ漢和ヲ学フ尤無敵詞鋒多ク泉カ
誦漢此翁ニ及テ倍々興ル家書 御傘執柄抄 獬冠子
金衣鳥独吟漢
和十句滑稽雜談抄九四卷写本此居佛誦ノタスケノニ
アラス好古考トナルキニ甚多シ
元文元年丙辰八月廿二日寂ス 行年七十一歳
辞世 七十一年よりいひつゝおの玉

流石

三輪氏鬼角堂ト号ス初東府ニ住メ立羽不角カ弟子ト為テ
鬼角ノ字ヲ得タリ後飯京菊翁ノ門人トナル延享初年没ス
三宅氏蝶々舎ト号ス誦漢ヲ善ク且書画ニ巧ナリ 元文
元年丙辰五月十七日没 行年四十一歳

米史

嶮岐氏初名ハ如牛後阜澄ト改ム後又米史ト更ム師家ノ二
世ヲ續テ四時堂ト号ス延享四年丁卯正月廿七日没四十四歳
辞世 心々地獄敷あたりき生れゆくん銀持の家

普求

山本氏初名ハ不求松門亭ト号ス又自雪蔭翁ト称ス東洞院通藤
下町ニ住ス家書種 袋 火燧印 磯乃ノミ
等アリ 明和八年辛卯七月廿一日没 行年七十九
辞世 心ちり〜秋の日和と死出梳

来々

河合氏五湖菴ト称ス初名ハ湖貫祇園新地末吉町ニ住家書
志賀の餘花アリ 安永九年庚子九月十七日没五十四歳
辞世 帷子を我が秋さ〜衣ノ耶

捨舟破帚ひざり塵取
五百韻等アリ没年詳ナラスト雖氏案ス天和年間欣
清風カ著ス書曇砥下云宗因常矩追善集トキケリ未閱

如川

蚊足

薄古

一味

正業

高松氏通名龍朔京師久医術ヲ以テ業トス始ハ梅盛ニ隨後
常矩カ手ニ屬ス没年詳ナラス案ニ延室ノ頃歿百人一句ノ人也
和田氏通称源七郎圓常ト号ス上代風ヲ好テ筆道達ス曾聞
常矩撰スル集物多ク此人ノ筆ナリト云書畫便覽ニ号ヲ寛車ト
アレトモ謬チリ延室七年ノ塵取集ヲ開キテ惑ヲトクベシ
明田氏通名玄菴橘祥軒ト号ス京師ノ人医ヲ以テ業トス
後似舟ノ門下ニ屬スト没年詳ナラス
北田氏通称詳ナラス一号遠雄ト云
京師ノ人
田中氏通称作助ニ條堀川ノ人淡葉軒ト号ス始西武貞室
ニ隨ヒ後常矩ニ屬ス没年詳ナラス家譜ニ正徳五年八月十日
没六十歳トアレ在謬也古集ニハス尚常矩カ親族トス一覺束ナシ

生西

竹亭

澤女

助叟

可俊

尚白

小野田氏名ハ二竹軒ト号ス
京師ノ人
溝口氏蚤歳ヨリ誦諧ヲ好シ和及竹翁ト友トシ善シ每ニ行厨
ヲ携テ遠近ノ勝地ニ遊ス坐ノ吐キ行々吟ス日トノ句アラスト云
一ナシ家書とどろきニ卷アリ此各集キヨク知ト云ナリ元禄五年
壬申六月廿九日没行年三十五歳
姓氏居所詳ナラス
常矩カ集ニ秀吟多出ス
片山氏名字詳ナラス椿木亭ト号ス洛陽東山ニ住ス本共肥
前長壽ノ人家書京の水ニ卷アリ没年詳ナラス
案ニ室水頃歿サテ拾遺家譜ニ大淀三千風ノ門弟トセリ予
自撰ノ京の水ヲ閱スルニ三千風ニ隨テ據キニモアラス
森氏名字詳ナラス京師ノ人ナリ
家書大路車付合集アリ
江左氏大津ノ人後蕉翁門派ニ似ス
委シク中編ニ云ヘシ爰ニ畧ス

暮四

石井氏始名龜林後一ト改公石壽菴ト号ス又自五橋公稱ト称ス享保十九年甲寅二月廿五日没 六十九歳

市貢

次山氏巨璞堂ト号ス又石壽堂ト号ス洛東鷺ヶ峯ノ麓住ス家書 彼 岸 暮四更善集ナリ 寛保三年癸亥正月四日没ス 行年五十有三

辞世 我ききえく窓りのこや籠の宮

市楓

松原氏名字詳ナラス石壽堂ト号ス初名木ト云家書 乘 合舟 鷺 雪 市貢更善集ナリ 等アリ

蝶之

人見氏芳草亭ト号ス明和五年戊子八月廿五日没行年五十一 辞世 一松樂の道と西へと渡 鳥

松永尺山

貞山

相淵氏名字詳ナラス芦丸舎ト号ス又湖月亭ト称ス京師人後江戸ニ移リ桶町ニ住ス家書 抄々々々 手橙 灯 江戸名所集 其 傘 親 鷺 闇 磔 抄 寛保元年辛酉 没七十有余○再曰貞山師トスル松永尺山ト云人古書ニニエス或書天和貞享頃松永未春ト云人アリ此人攷傳系ヲシラス

貞賀

相淵氏貞山ノ男

貞橘

姓氏詳ナラス江戸人 家書 笛 ココ 海

貞至

星川氏澁柳菴ト号ス 家書 机 勝手

貞屋

熊谷氏旭洲洞ト号ス 京師人

足村言當

重當 足村言當男

齋當

重當男通称 三郎右衛門

○以上道遊軒松永貞徳居士孫弟

檀林風祖 並直弟

宗 因

西山氏通称二郎名豊一始一幽ト号ス後宗因ト改明曆万又自
 西羽ト称ス又梅翁ト号ス此外西子梅出子梅花翁元肥後國加藤家
 侍臣ト云平保年間浪花江北天満天神ノ社地ニ住シテ向榮菴ト
 号ス其後社地ヲサリテ其菴盤屋町天満ニ移リ寓スノ頃初懷惠
 菴里村昌琢法眼二月廿辛ス六十五歳ノ門ニ入テ連哥ヲ善シ天満天
 神月次宗匠トリ後長子宗春ニ譲リ己ハ宗鑿天筑波守武神
 手独吟千句ヲ慕テ滑稽家トナル一年雷ニ遊フ其頃即非禅
 師ノ法嗣法雲和尚トテ博識ノ禅僧オス則俗弟子ト成テ禅意
 ヲ受クメクリ帰テ江戸ニ下リ都ニ登リ專新意ヲ吟ス依テ門
 子ト成ル人潮ノワクカ如シ寛文ヨリ下天和貞享ニ至テ名ヲ海
 内ニ裏ス此一流ヲ称シ當風トモ又檀林風トモ云 家書

蕃椒百韵 獨吟千句 後五百韵 後千句
 兩吟集 鎌倉三百韵 七百韵 花洛百韵
 十會集 釋教百韵 天満千句 北草三百韵

宗 春
西 鶴

四人法師 一時 兩 云々あえ 高野紀行
 等アリ 天和二年壬戌三月廿八日没 行年七十三歳
 天満寺町西福寺ニ牌アリ

西山氏宗因息父ノ業ヲ續テ連歌ヲ善クス天満菴臺屋
 町ニ住ス延宝年間慈父連歌独吟集ヲ上木ス没年詳ナラス
 井原氏通名詳ナラス初ノ名ハ鶴永薙髮ノ一ト改公松寿軒
 ト号ス鎗屋町ノ人延宝年間一日二万三千句ヲ吐テヨリ称
 シテ二万翁ト云又戯文ニ妙ヲ得著ス所幾許アリ家書

大夫かひ 後大夫かひ 博多百合 朋不祢
 杉 石ころま 以下戯文 一代男
 大いふん 二代男 櫻隠秘事 一代女
 武家きり ひんぎら 文及古 永代記
 置土庭 西雀織留 浪卷大鏡 西雀きりし
 名残友 一目玉鉾 等アリ 宵月筭用

柳語 産

松意

衛ノ筆ナリ甚珍ニ冊子ナリヲ表目ヲ忘失セシ故暫思道アケタニ元祿六年癸酉八月十日没行年五十二歳上卷ニ抄出浪老八町目寺町誓願寺ニ葬ル牌面曰仙皓

西雀 門人雀平團水建之
田代氏本姓ハ高木氏名ハ秀延琴風軒川草子ト号ス後擅林軒ト改ム大和ノ人大坂ニ住ス寛文未東府ニ下リ宗因風ヲ弘公飛躰トテ日々ノ變化ヲアラハス是ヲ江戸檀林ト云 家書

宗旦

虎漢集西雀薈宿有リ没年詳ナラス
松井氏通称詳ナラス也雲軒ト号ス攝州伊丹久或曰池家書無分別宗因ノ句ニ下カヤ言分列スル籠ぬけ木兵百九遠山鳥加板ハハ無盡經

高政

野梅集 等アリ伊丹風ノ祖ナリ當百人一句ノ一人菅野谷氏薈髮ノ法橋ニ任ス於京師宗因力誅風ヲ立總本寺半傳連社ト号ス蓋シ東府ノ檀林ニ對ス意也友静 仙菴如泉等高政ニ與シテ梅翁ノ風ヲ弘ム因之古風ノ俳士爭論交起ル所謂ル破邪顯正頼政ノ心三人ノ心也等ノ闕各多ク出ス又オノガ著ル集ハ 中庸姿

惟中

繪ハイ勢 同後集 是天道 三百韵
江戸躍 等アリ没年詳ナラス當百人一句ノ一個也

岡西氏通称詳ナラス名ハ勝 字赤子一時軒或閑々堂ト号ス因幡國取鳥ノ人弱冠ヨリ博物多識ナリ故アリテ因加ヲ去テ脩前岡山ニ寓メ專儒ヲ以テ業トス延宝五年再脩前ヲ出テ浪老高麗橋側ニ卜居ス初歌道ヲ関与兵衛盛貞中院通村卿御門人因加ノ人及鳥丸資廣卿ニ教ヲ受ク一年西羽西國ニ遊フ則門人トナリテ滑稽家ト云家書

太郎五百韵 次郎五百韵 誹諧蒙求 十百韵
近來風躰 誹諧三部抄 波團扇返答 破邪顯正返答
自註評判返答 いつと都の 徒然草直解 續無名抄
徒然草真名 枕草紙芳註 和歌秘密 一時隨筆

外題カエ一金砂 草帛ト云
五十四歳 家譜望一門下ノ条ニ曰「惟中岡西氏脩前人也初号ニ有後改惟中云又同書園女ノ条ニ惟中去郷住于浪老之日迎之園女為妻中没後移住于東府属其角云云」此說謬ナリ一有ハ斯波氏ニシテ伊勢山田ノ俳哲ナリ惟中カ

初号ニアラス **御田扇** 天和二年伊勢山田に友撰り **當世百人句** 元禄四年印本 **日本行脚文集**

伊勢大波三千凡著 等ニ兩個トモニ出タルヲ以テ惑ヲ氷解ベシカウ園女ヲ惟中

カ妻ナリト云モオノワカラ明白ナルベシ尚蕉門ノ条ニ委シ

前川氏名ハ由平 或由兵衛トアリ 夕舟子ト号ス浪老平野町ニ住ス

晩年釈門ニ入テ自入ト改ム宝永年間北野村ニシテ没行年不詳

林氏名字詳ナラス西鵬齋ト号ス大坂久延宝年間俳学ノ

為ニ東府ニ赴ク宗因己カ梅ノ一字ヲ譲テ梅朝ト改ム其以前ハ

西鵬ヲ以テ号トス **家書** **精進贈** **通一馬**

等アリ **當百人句**ノ弟ニ出ス

高瀧氏 始山壽氏 通称正左衛門名安之薙髪メ似仙ト改ム又自益

翁ト称ス泉州堺久後大坂江戸堀竹屋町ニ住ス初ハ令徳門

人多家書 **落花集** 犬さくら 両吟千句

濡がくも 等アリ没年詳ナラス **大坂俳歌仙**ノ一人

松山氏名字詳ナラス大坂ノ人 季吟門鳴戸水雲ノ作セシ

大長刀ニ曰「致也」大坂の人季吟先生旧友めて俳諧の糸舎

度くありし其舎のさびき等先生よゆせし人といひ

半幽

梅朝

似仙

致也

昨非

定直

幾音

西國

如自

萍宿

俳諧の風箏大坂乃濁流ももまびんもくき作者ぞりし

且亦去年延宝四年の四月にせし人ありと云アリコニ天坂乃

濁流ニモ深ストアレバ別流ノ人タリヤ尚ヨク考ベシ **浪老俳哥仙**ノ人

乾氏名字詳ナラス葉香軒ト号ス備前岡山久酒ヲ嚙ヲ業ス後浪老

江北天満橋側寓シテ点者トナル初立圃門子多家書 繩すど礼

悲の巻 **根合** わいぼー 等アリ

木畑氏通名玄佐備前岡山人医ヲ以テ業ス家書五ヶ 國

両吟集 **脊戸曙** **朧月夜** 等アリ

中堀氏柳和軒ト号ス始音後幾字改ム浪老尼寄町住ス家書

家土 産アリ○兄ヲ初知ト云狂歌俳諧ヲ能ス何人門タルヲ不知

豊後國ノ桑門或西海トモ云家書相 腹中 花見數寄

西吟十歌仙 等アリ没年詳ナラス

石井氏朝鷗子ト号ス肥前佐賀ノ人ナリ始立圃梅盛ニ親ミ宗因

西國ニ遊ル期門弟トナリ則西吟三百句ヲウラ又一時雨ト云冊子是也

那波氏通名江雲初名志好櫟軒ト号ス又自萍翁ト称ス京師ノ

人ナリ季吟門弟ニ檀林ニ皈ス **虎溪橋** 作者

方由

南氏通名元順泉州堺人医ヲ以テ業トス寛文年間堺天神社
前三始テ編笠著誦詣十方句附合ヲ催ス騷人爰ニ集テ其風流亦
聞ナルヲ感ス私ニ江戸亀戸社前於テ開庭セシ是ヲ後也家書寛悟集 二日十句
等アリ晩年ニ及テ正風ニ皈ス没年詳ナラス○按スルニ元禄二年
尾陽ノ俳士檀木堂荷兮撰ル荒野集ニ辞世ノ吟アリ左ニ抄出

辞世 南無や空たぐさのちきん

瓢界

北村氏名字詳ナラス始瓢海ニ作ル大坂人後江戸ニ移居家書
大満呂 難波順礼 等アリ或昏云名宗俊

一得

牧野氏名字詳ナラス始西鬼ト号ス又自鬼翁ト称ス 浪老
上町ノ住 家書 たうやし 一巻アリ

盤谷

志水氏名字詳ナラス泉干ト号ス江戸瀬戸物町ニ住ス或云本土
越前ノ人トモ家書桑梓 格アリ 再曰三番續室水ニ年印本

遠舟

和氣氏名由貞ト号ス浪老ノ人筆道ヲ以テ海内ニキリ門人
ニ水井走帆堂ト云アリ。家書浪老辨慶 姿 哉
八重一重 等アリ○或書三和氣仁兵衛堀詰ノ住トアリ

豊流

岩橋氏名豊春攝州天王寺邑人
家書 天王寺名所彼岸櫻アリ

重安

伊勢村氏通名宗善浪老ノ佛匠ナリ始古風ヲ吟後宗因カ門弟ト云
家書 糸 屑 集東對菴高島轍士ノ著ス余屑ト別シアリ

悦春

岡田氏通称大文字屋二郎兵衛浪老ノ人始ハ令徳ニ隨ヒ後宗
因ニ属ス浪老俳諧仙二人タリ

三介

木村氏通名宗玄不水子ト号ス後三箇ト改ム又再三ケト改ム
始ハ安静カ門ニ入後檀林ニ属ス晩年蕉門ニ皈スト

六翁

黒川氏名字詳ナラス大坂人昨非ノ撰ル繩すれ四半ニ病ト云
あち死ね〜思ひ待りけと書付てふ〜の娘まのこ〜ゆり〜世辞

肯怒

片岡氏通称庄三郎松舟軒或松門亭ト号ス浪老堂嶋ニ住ス始ハ
季吟門弟ト云好□旅日記五卷ヲ著ス俳各ニアラヌ

清風

鈴木氏 秋風ト号ス羽州尾花澤人京師ニ属ス家書
由加多椰麻 稻むーろ おくと双六 吐 授 鶏
あやーき 赤曇り砥 等アリ○此士傳別ニ論アリ

治平

城越氏或越氏通称詳ナラス摂陽平野邑ノ人後大坂倫後町八丁目ニ住テ古筆賞鑒ヲ以テ業トス家書古今俳諧師手鑑アリ

均明

苗氏詳ナラス通称亀屋徳右衛門ト云浪老ノ人櫻千句十歌仙各盃吟者

春倫

濱田氏名字詳ナラス浪老ノ人○従弟ヲ春良ト号ス俳諧ヲヨラス和歌明題部類抄ヲ著ス或云維舟門人トモ

宗静

土橋氏通名以慶後以計ト改ム大字軒ト号ス又春林子ト称ス摂州平野邑ノ人後長堀十丁目住ス筆道ニ名アリ家書浪老色紙アリ没年詳ナラス安スルニ正徳ノ頃歿

秋香

井上氏通名昌海名貞則大坂高麗橋筋島屋町ニ住ス筑波ノ道ヲ以テ業トス里村家ノ門人俳諧ハ宗因門弟タリト

鵬一

苗氏詳ナラス越後國九足ノ人大坂ニ寓ス家書八景集アリ

正友

遠藤氏通称詳ナラス江戸ノ人綾錦荒木加友系曰「正友勢州杉木勾當望一弟住芝源助橋延宝ノ頃檀林流布時合藤代松意而宗因荷擔トアリ此説謬アリ松意ト合藤セハ杉木正友ニハ

無ト

アラス別人ナリト苗氏ヲ見テモ論ナカルニ冬ニ加友門人ト云考アリ望門ニ平田氏幽翁ト号ス江戸ニ住ス本士越ノ國ノ人ナリ享保五年庚子十月廿日門人京橋柳町忠次宅ニテ没行年六十二歳

辞世 其心その期ありてそのかど先をいそいそよ世の中

宗貞

浅沼氏賛也ト号ス又望山軒ト号ス浪老嶋屋町ニ住ス書ヲ善クス

醉鶯

白江氏通称玄桃医術ヲ業トス始メ名ハ白ト云浪老御霊前ニ住ス筆道ニ名アリ

正察

大坂西道寺住職半捨軒ト号ス家書浄土珠數アリ

未次

苗氏詳ナラス通称八坂屋治右衛門撰易住吉ノ人六く吟者

四友

土屋氏通称外記松平出羽守君ノ家臣江戸

雪柴

小坂井氏或由比氏トモ通称庄左衛門江戸ノ人檀林十百韻吟者

萍友

萩原氏阿波徳嶋
久家書四國猿

如見

樋口氏浪老ノ人
名字詳ナラス

西隨

早川氏
同

一禮

中村氏始名志計ト云
檀林十百韻ノ人居
所上ニ同シ

夕烏

深江氏
同

素敬

苗氏詳ナラス
同

櫻花

松井氏名重宣
同

百丸

森氏名一勝白鷗堂ト号
ス伊丹ノ人

本兵

岡島氏名豊常
同

鐵幽

上島氏 鬼貫親族
同

鷺丸

苗氏詳ナラス
同

昨雲

笠原氏通称半左衛門
江戸ノ人

柴舟

苗氏詳ナラス
大坂ノ人

夕扉

船橋氏
夕扉妻
同

榮倫

紫硯

内藤氏左京亮名義恭茶風鈴軒白藤子ト号ス又風虎ト号ス奥州岩城侯 御集夜ノホキ 櫻川

信太ト云

六百番俳諧合

等アリ

露沾

内藤氏義恭君御嫡下野守名義英遊菌堂又傍池亭ト号ス父君ト俱ニ宗因力門弟タリ 享保十八年 十四日卒

○西山宗因孫弟系

井原西鶴

東鶴 北尾紅翠齋ノ繪本ノ序ニ 此名見エタリ西鶴孫ト云

西吟

水田氏通称詳ナラス落月菴ト号ス津國櫻塚ノ人書ヲ善クス師ノ一代男 八巻ハ此士ノ筆ナリ 家書 西吟内々 鬼ノ目 登ル心山 浪花さくら 菜のたふ

鶴平

塩味集等アリ當世百人ノ入り元禄年間点者
下山氏通称喜右衛門大坂心齋橋筋北久宝寺町ニ住シテ
物ノ本ヲヒサグラ業トス
姓氏詳ナラス

炭翁

團水

北條氏俗名詳ナラス
橘堂又平元子ト号ス薙髮シテ
白眼居キト云ニ條堀川ノ入り後浪卷ニ下リ西鶴力遺跡ニ
住シテ西鶴菴ト改ム家書 塗 笠 秋津一
たん袋 弥之助 独鈷鑛論 西雀ト西作
特アリ 家譜ニ生涯清貧之人也トイリ
宝永八年辛卯正月四日没行年四十九
辞世 かちりく引るく胸の月清し

再曰正徳二年印本年号未詳怪談諸国物語ニ團水名アリ別人ナリ

貞上

姓氏詳ナラス文々舎藤角カ橋屑ニ西雀菴山田溪尾ト云
人アリ此人ノ後名歟又東雀カ初名歟

才磨

椎本氏始告氏云名則氏字少文松笠軒ト号ス又舊徳翁ト称ス
初名西丸八千九ト号ス南都人或云和加宇多入始江戸ニ住シ後難波
父市町又天満七町目ニ寓ス家書千葉集 伊丹句合
元文三年戊午正月二日没行年八十或曰宗因直弟

只丸

弄松閣ト号ス又自鴨水子ト称ス高田宗ノ僧京師本誓寺
中福昌菴ノ住職法名覚印ト号後浪卷谷町欣浄寺ニ
住シテ 改ム家書 三阿ト云 小松原
木のうひり 足ぞろひ 貞徳永代記批言 明題集

等アリ正徳二年壬辰十一月二日寂七十有余謚樹心房ト云
辞世 陸と思ふ鴨やかふもの水も多れ

佳風

豊島氏通称平治右衛門有紀堂ト号ス始才尾ト云江戸塚町
ニ住ス家書 夢想 扇アリ享保十二年戊申十二月十
四日没四十九谷中大雄寺ニ葬ル法名日好ト云

逸志

笠家氏素竹軒ト号ス晚年半局菴ト称ス江戸浅草
竹門ニ住ス家書 犬椿葉集アリ延享四年丁卯五月

芳室

廿七日没行年詳ナラス報恩寺中高徳寺ニ葬ル
椎本氏甘泉菴ト号ス舊室翁ト称ス浪卷久人 家書
難波鶴 續千葉集 追善集 石霜菴
白玉椿 著花集 等アリ 延享四年
丁卯三月四日没行年八十四

矩州

椎本氏五彩堂ト号ス初名桐磨元奮徳翁門人ニシテ
芳室カ後ヲ續ク 家書 哀些集 清逸集
四日 施 等アリ没年詳ナラス

春耕

千葉氏石橋隣ト号ス浪卷
久人家書無盡藏アリ 皎々 光枝氏鷺 魯紅
兎嶋氏青房ト号ス浪卷久人 家書 厚顔記
通俗志 奥小日記 等アリ没年詳ナラス
十河氏通称詳ナラス家書土 餅 松之鳥米
等アリ没年未考大坂久人

負丸

何中

大立

竜田氏水足軒ト号ス 家書 毛登能水 又かゝの水
延享元年甲子四月廿六日没六十九歳歿
辞世 ちハ廿日我ハ六十九夜の明

尤橘

梅門

了雨

水足氏荷旃齋ト号ス家書 天香集 古硯屏
等アリ没年詳ナラス大坂久人
稲木氏始房磨ト号ス家書 霜と礼 小倉塵
布恩川 月の月 倭多羅尼 象山蔭
等アリ没年詳ナラス浪卷久人
吉田氏戸樞菴ト号ス家書 梅朝 此君
波入日 梅千本 二日影 等アリ

田代松意

松水

杉木氏 田代氏 於亀戸天神宮回廊 笠著
誦諧之發起 あやかし記ニアリ
延宝三年 江戸談林十百韵 一座セル 野口在色 出来松曰
豊後一朝ノ三十八宗因直弟歿松意下葉歿未考

管野谷高政

正定

川合氏

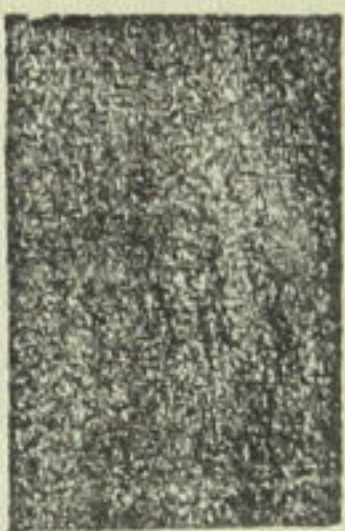
正長

以上二人延室ノ中庸姿
ニ出タリ門人ナルヘシ

前川由平

来山

小西氏蚤歳父母ヲ喪シ親族ノ為ニ育シテ人トナル性敏質
直平日只書ヲ讀ムコトヲ好ム由平曾テ兒ノ宗族ト善シ強テ
請テ門弟トス一ヲ教ルニテ悟ス由平愛之如子齡未二十
ニ満スシテ案ヲ植詞宗為ル十萬堂ト号又湛々公羽ト称
ス平野町ニ住ス晩年ニ及テ撰南今宮村ニ移住ス享保
元年丙申十月三日没行年六十有三一心寺ニ葬ル
辞世 来山云々はねの香で先ぬくそれでうらも何れか



家久

文十

長井氏通称詳ナラス蚊市ト号ス又伴自軒ト称ス後伴
自ヲ以テ号トス 家書 玉ナリ笛アリ
高橋氏撰加鷺森ノ人浪卷淡路町中筋ニ住ス
家書 夜ひひるアリ

古道

布門

村井氏無名園ト号ス南都久 寛延二年己巳十月四
没ス行年六十九歳 家書 花日記
井上氏五流齋ト号ス又自桑老父ト称ス 家書
小正月 手束弓 兼 曇 卅三田忌
襷之能 若葉井戸 有馬日記 桑老父
南無きんりき 呼子鳥 等アリ大坂久没年詳ナラス

樊川

高龍似仙

林氏東江閣ト号ス浪卷久 家書 擊鼓樓 卅三田忌
櫻 道 雲 峯 句高判 菊 苟 東武紀行
藍乃手 等アリ 没年詳ナラス

万海

武村氏通称詳ナラス名昌數曳尾堂ト号ス師ノ益一字ヲ
受テ益友ト号ス大坂丁目筋ニ住ス 浪卷色紙百人句ノ人

志水盤谷

二世 盤谷

千足氏梅堂下号ス始尾谷ト云神田住ス家書
園圃録 16すま 等アリ寛延元年

戊辰土月六日没行年不詳

概純 松賀氏通称伊織紫座下号ス風虎
君ニ教ヲ受テ 仙臺岩城久

内藤露沾

露言

福田氏風琴子ト号ス初調和門ニテ調也ト云江戸南傳
住ス元禄四年辛未四月十日没六十有余

露言

白堂下号ス

江戸人

宝生氏通称左太夫江戸人

後蕉翁門ニ皈シ沾圃改ム

沾言

水間氏通称治郎左衛門名友兼合歡堂下号ス又友齋ト称ス始

露言門弟ニテ沾葉ト云東府人後一家ヲナシテ四海鳴ル家書

餘花千句

同

續 一字幽蘭集

後年名古屋ノ士明
カ著述ニ同名アリ

等アリ 享保十一年丙午六月廿日没 行年六十有余
平阿山法恩寺ニ葬ル 法名本理院了徳居士

沾洲

貴志氏行軒齋ト号ス又自五千叟ト称ス始名民丁ト云東武

ノ人家書

兩吟集

西行菴

芭蕉菴

梅日記

七十子

等アリ元文四年

行年七十歳

大高氏通称源吾名忠雄播州赤穂淺野家ノ義士死ストシ三十三

辞世 林でのひ茶屋をまゝへ一死出の山

富森氏通称助右衛門名正因淺野家ノ義士死ストシ三十四

辞世 夢鳥の羽はひらけり

神寄氏通称與五郎名則休淺野家ノ義士死ストシ三十七

辞世ノ吟不知○以上三才傳諸書ニテヨク知ル所ナレ爰ニ畧ス

鴛田氏六峯仙ト号ス江戸茅場

町住ス享保十五年没行年不詳

青岷

前田氏二柳菴ト号ス
始及梁或菴室ト云

内田氏通称不詳薙髪ノ桂二房ト号ス江戸淺草ニ住ス家書

麓乃道

濱松枝

東千句等アリ室曆八年没

仙鶴

堀内氏化笛齋ト号シ長生菴ト称ス又自鶴翁ト称ス元東府ノ人宝永中京師出テ点者多ク此叟茶ヲ嗜ミ古器ヲ愛スル癖アリ故ニ其道遠ノ人此叟ヲ識者多ク又戯画ヲ善ス 家書 忘く内 十二月箱 水精宮 人曆千年記 等アリ 寛延元年戊辰閏十月廿日没行年七十中歳

鶴人

森川氏並笛齋ト号ス京師ノ人 寛延三年庚午三月朔日没五十二

甘谷

長島氏名字詳ナラス 甘谷男 宗久 長嶋氏通称詳ナラス 享保十三年没 宝曆七年没八十二

壺月

石川氏江戸ノ人 享保中ニ没

蒲丈

豊津氏午晴菴ト号ス又鹿吼子ト号ス初東府ニ在テ業ヲ行 軒齋ニ受ケ後浪卷ニ出テ一炊菴ニ属メ点者トナル 家書 画賛集 五百仙 等アリ没年詳ナラス

謝大

長濱氏朝巢軒ト号ス 大坂ノ人

常仙

志村氏孤鶴汀ト号ス或ハ二橋菴青麥堂ト号ス又長鶴子ト称ス家書 続乃筏 鳩むくー 千々の秋 等アリ

幸徳

延享元年甲子二月 没ス行年詳ナラス 今村氏石泉ト号ス始名ハ魚尺江戸和泉町ニ住ス 家書 震中倉アリ 没年詳ナラス

紹廉

小野氏銀竹堂ト号ス後一炊菴ト号ス 浪卷ノ人家書 宗因句集アリ

白羽

鹿嶋氏十南齋ト号ス往ニ延享中独吟万句ヲ催ス 席ヲ備後 二張終日ニ満座ス其雄名坂中ニ鳴ル 家書 無山香

藤角

石 紫 五文臺 一日萬句 半 墨 難波筏 等アリ 没年詳ナラス 木澤氏文イ舎ト号ス浪卷ノ人 家書 橋屑 蛙ふくら 等アリ

芳 畫

木村氏亞齋ト号ス
泉 易 塚ノ人

茶 雷

山縣氏東居齋ト号ス
浪 卷ノ人

露 月

豊嶋氏通称治左衛門名貞和五重軒ト号ス始ハ識月ト号ス
東都ノ人享保十六年薙髮シテト改ム家書 誹諧宮遷

ニ子 山

倉ノ衆

名物 鹿子

二重 凍

卯月庭訓

闇のう光

寄進 能

句 靈 宝

等アリ 宝曆元年辛未

没行年八十五

露 牛

赤菽氏名字詳ナラス始ハ湖十門人湖十門人 門人中編委ニメ
花麥ト云江戸ノ住

沾 涼

菊岡氏通称藤兵衛名房行雀下菴又南仙齋ト号ス始ハ一品
ノ門子ニシテ南仙ト云江戸神田ニ住ス本士ハ伊賀上野ノ人家書

百 福 壽

同 後 集

綾少一き

鳥 山 彦

百 花 實

日光名跡志

近代世事談

江戸鹿子温故志

江戸砂子

同 續

本朝俗諺志

誹諧故事談

等アリ 延享四年丁卯十月廿四日没 行年六十有余

淺草誓願寺ニ葬ル

布 仙

菊岡氏晴行舎ト号ス
沾涼嫡子居父同所

軒水 本秋 如昔 西鴈 荷平 似扇 文流

天垂 燈外 幸方 岸紫 美雀 宗圓

○右之俳士イヅレモ檀林黨多リト雖モ系統考ガタシ

○三千 風

大淀氏名ハ部字友翰勢州射和邑ノ人大箭數ト称シ寓言堂
或無不非軒紫冥軒ト号ス此外及鷗堂ニ合堂積木 亭無月卷ノ數アリ十五歳ニシテ誹諧ニ
傾キ和漢ノ學ニ通シ文筆ヲ善ス和歌連俳ニ於テ師園示入頓悟久
也三十有ニメ浮屠トナリ吞空法師ト号ス日本舊地勝景徑徇志ヲ
起シ先仙臺ニ赴キト居スル一十五年ヲ経タリ延寶ノ頃一日獨吟三千
句ヲ吐テ片時ニ數幅紙牋ニ書ス故ニ以テ為名後天和三癸亥春仙臺
ヲ設足シ元禄ニ己巳夏ニ至テ首尾七年ニテ行脚成就シ射和ニ皈ル

後又相州ニ赴キ茲ニ位舊跡鴨立澤ヲ再建シ自ラ東往居キ称ス
蓋シ行脚ノ首途四月四日ヲ以テ命期ト定ムキ音嘗テ遺言セリ
家書 松嶋一色兩吟集 同 後集 仙臺大前かひ
日本行脚文集 大本 七卷 田鳥集 等アリ
辞世 仮ニ来テ真ニ歎ク心衛門ノまれぬ前ノ父ノ子ニ
發句 ちつどもや又ぬき乃旅の衣文

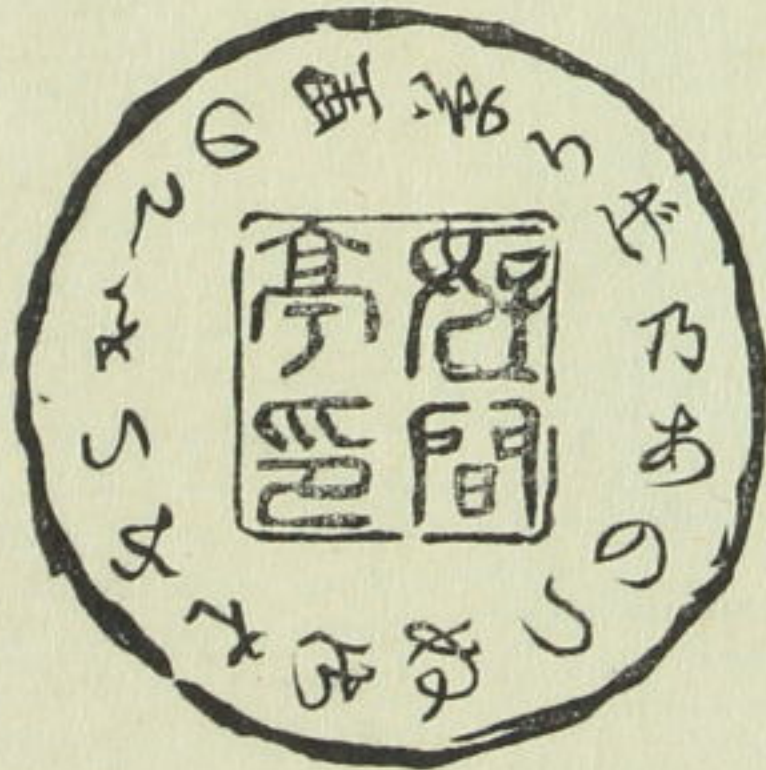
加之

姓氏詳ナラス和風軒ト号ス仙臺久三子風高弟ナリ依テ吞
空法師仙府ヲ去ル時文臺ヲ附與セリ家書 三つがら
山海集 蓮乃實 等アリ 元禄年間久
慶長ヨリ此方師門詳ナラザル名家別ニ卷ヲ屬テ稻津
敬雨孫弟ノ後ニ附ス

誹家大系圖下之卷 畢

天保九年戊戌四月彫成

好間亭藏板



○生川春明近刻書目

誹家大系圖 中編 二卷 下編 三卷

奇跡職人考 三卷 古画古書入 百年以前世子あり一扇子賣。大

平記よも。蓮系女。哥提經。哥念仏。のらひ教旨入をあらわぬのく古
書よりひとく其の地を考へ古圖を載て証とす

近世女風倍考 二巻

慶長元和の頃より享和文化の頃まで女
粧ひ古今の沿革を論じている人の質朴ある

何となくと〜めんあひら〜めづ〜き古画古音とあり〜王証と云

伊勢何んがけ 三巻

伊勢ひと云よ何〜糸の雜支を記しきも
古画古音をおわく纂〜を讀むらむと云

うら〜むを其らふハ伊勢をとり音古市あまびやの古音よりたき録

宮川田樂の起原 伊勢ひくも 宝永おぢの古音 相の山ぶ〜かろたぢいあ

みれとあ〜考〜ん

浮世繪師系譜 一巻

此書は花田内通。吉田平兵衛。葦川師宣のた
かひ三都の名高きをあ〜きとあ〜今の

世といふあ〜くあ〜ん又先哲の書どもあ〜考らぬ〜山右佐又平と

り人あ〜きとあ〜た〜あ〜語あ〜ある延宝天和のころ京師丸老町西洞

院に住せ〜浮世繪師又吾流うあ〜あ〜べ〜き〜のまもけ書よつま

ひぶらあり

